

たがつき保養キャンプ 今年も少しお手伝いに

編集委員 S

福島第一原発事故による放射線被災地の子どもたちが、少しの間でも被災地を離れて身体を動かし、安全な食事を摂り、心身のリフレッシュをはかる保養キャンプ。全国でひろく行なわれていきます。港合同とNPOみなとは高槻での保養キャンプにかかわっています。

今年で第六回。七月二日から八月三日まで、福島と群馬から、小一から中三までの子ども十六人と四人の保護者が参加。行信教校というお坊さんの学校を借り、摂津峡や山の中のアスレチックを楽しむ、そうめん流しやバーベキューに舌鼓を打

ちました。六月の地震の影響がそこに見える中でのキャンプでしたが、無事に終えることができました。

私は前日の準備と最終日の後片付けに参加。最終日の終わりの会では参加者全員が感想を言いますが、中三の女の子が「私は今年で卒業ですが、来年は高校に入って、スタッフとして来ます」と宣言。一同を感動させました。

NPOみなどではカンパを出し、南労会支部のTさんと私がお手伝いに行きました。また、岡山のハンセン病療養所でのワクワク保養ツアーには



南労会支部のHさんが参加しました。

福島では小児甲状腺がん患者が増え続け、アンダーコントロールされているはずの汚染水の八割以上が基準値を超え、外部に漏れてもいます。子どもたちの健康が危ぶまれる中、保養キャンプの役割はますます重要です。